

第2学年 総合的な学習の時間 学習指導案

平成28年11月22日(火) 第3校時
高知市立愛宕中学校2年2組 生徒数40名
指導者 森山 翔太・上野 るみ

1 単元構想図

単元名 高知を再発見！100年先も住みたい高知

【単元でつきたい力】

- ・現状を把握し、課題を設定する力
- ・収集した情報から、課題を解決する情報を選択し、整理・分析する力
- ・主体的・協働的に課題の解決に取り組み、学習したことを実社会に生かそうとする態度

◆学習の流れ

第1次1・2時

- ・単元のオリエンテーションでねらいを知り見通しをもつ。
- ・高知の良さや課題について話し合い、学習課題を設定する。

第2次3・4・5時

- ・高知と京都の観光について情報を収集する。
- ・高知と京都の観光についてさらに深く調査するためにアンケートを作成し、それを用いて、まず地元高知の観光について調査するための企画・立案を行う。

第3次6・7・8時

- ・高知の観光について実地調査を行い、集めた情報を共有して整理・分析を行う。

第4次9・10・11時

- ・高知の観光に関するアンケート調査や実地調査等をもとに明らかになった成果と課題について検討する。さらに、京都の観光ではどうなのか、これまでの情報を整理し、京都での実地調査の計画を立てる。

第5次12・13・14・15・16時

- ・京都での研修の機会を活用し、京都の観光に関する実地調査を行うことを通して、高知の観光を活性化するために生かせる取り組みを見付ける。

第6次17・18(本時)・19時

- ・高知と京都の観光に関する実地調査やアンケートの結果などから比較・分析を行い、まとめたことや自分たちの提案を発信するための発表会を行う。

◆意識の流れ

・今まで高知の観光のことを深く考えたことがなかったけれど、知らないことがたくさんあることに気付いた。

・高知と京都の観光について、比べながら調べてみると、違いや良さ、課題などが分かりやすい。

・高知の観光をさらに魅力的なものにしようと、工夫したりPRしたりしている人の話は参考になる。

・高知県に今よりも観光客を呼ぶためにはどうしたらいいだろう。京都では、どんな工夫をしているのか調べたい。

・観光都市京都の魅力を探るための実地調査に挑戦しよう。

・高知にあって京都にないものは何だろう。
・高知の観光を活性化させるためにどんな工夫や取り組みが考えられるかについてまとめて伝えたい。
・自分たちが調べてきたことが高知の観光に役立つとうれしい。

2 単元について

(1) 単元観

本単元では、故郷である高知の観光を活性化することを通して地域貢献をすることを目標としている。国内旅行の調査・研究を行う、じゃらんリサーチセンターによると高知県は「宿泊旅行調査2016」ランキングで「魅力ある土産物が多かった」が2位、「ホスピタリティ(おもてなし)を感じた」が3位に入っていた。高知県は観光の面で国内からの注目度が高まっている。しかし、人口減少や高齢化などが急速に進んでいる現状や、第一次産業では跡継ぎ不足が発生していることなど、様々な問題を抱えている。一方京都は、観光雑誌「Travel + Leisure」が選ぶ世界の人気観光都市TOP10で二年連続1位を獲得している。京都の観光の取り組みについて調べることや、様々な観光地を回る中で、生徒は、なぜ京都に人が訪れるのか、観光を柱として地域を活性化するためにはどのような工夫が必要なのか、興味・関心をもって考えることができる。

本単元では、高知の観光の実態を踏まえ、京都の観光の取り組みや現状を学び、比較・分析しながら高知の観光の活性化について考えることで、生徒自身が意欲的に探究活動に取り組むことを目指している。観光を活性化することは、高知を訪れる人が増え産業面での活性化につながることや、魅力を実感した観光客が高知に移住し人口増加にもつながる可能性を秘めていることを、生徒自身が探究する中で気付いていくものと思われる。こうして高知の魅力を再発見し、高知の観光活性化に向けての取り組みに関わることで、将来県外へ進学してもUターン就職する生徒を増やし、Iターン就職を希望する若年層の増加にもつなげていきたい。また、この単元の学習を通して新たな課題を発見し、次の単元や来年度の学習へつなげていきたい。

(2) 生徒観

本学級の生徒は昨年度実施した「愛宕仲間づくりDAY」での体験活動を通して、仲間の役割やルールとともに、お互いに理解し合い協力して活動に取り組むことの大切さについて学んできている。

また防災の単元においては、防災に関する基本的な事項の学習を行い、地震と津波についての知識を土台とし、パンフレットや視聴覚教材等の資料を活用したり、日本の災害対策の取り組みや、今後の課題について考えたりする学習を行った。併せて、災害から身を守るための取り組みについても調べ、起震車体験等を通して、さらに防災への意識が高まってきた。1年次の3学期には、身の回りの防災に目を向け、「我が家の防災」ということで、個々の家庭における防災対策や、地震が起きた際に危険になると考えられる箇所を調べた。その後、各班で調べて分かったことや課題について話し合い、防災新聞を作成して発表し、保護者に向けての啓発活動を行ってきた。今後の課題は、得た知識を活用し、新たな課題解決を行おうとする、主体的な態度を育成することである。

(3) 指導観

本単元の指導に当たっては、これまでの各教科等で得た知識や技能、生徒がもっている情報等を有効に活用させながら探究活動を進めることができるように、探究のプロセスである「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を意識して指導や支援をしていく。そして、探究したことをまとめ、高知の観光の活性化のための提案をするというゴールを設定し、思考ツールなども活用しながら意欲と目的意識をもって学習できるようにする。

課題の設定と情報の収集の場面では、高知の観光の良さと課題について深く考えさせたい。高知の観光と言っても、食べ物・自然・名所・おもてなしと、その内容はハード面、ソフト面ともに幅広い。世界の観光都市京都と比較する視点を取り入れることで、高知の観光ならではの良さも改めて見えてくる。実地調査を効果的に行うためにはアンケート調査の作成が必要となることも、生徒たちがこれまでの各教科等の学びの中から気付くと思われる。アンケートの作成と分析は、これまでの国語科や社会科、数学科等で学んだ知識や技能を発揮する場として位置付けていきたい。

次に、比較・分析したことを基に情報をまとめたり表現したりすることで、グループで協働的に探究する場面を設定する。グループは、アンケート調査をするグループと、観光に関わる機関等に実地調査をするグループの大きく二つに分け、互いに異なる視点から集めた情報を共有できるようにする。発表する際には相互評価を行い、共通点や相違点を検討しお互いに認め合ったり改善の方向について指摘を行ったりすることで、課題に対する自分の考えを明確にさせるようにする。高知の観光についての実地調査でも、実際に高知の観光に携わる方々と協議する場を設ける。また、生徒たちがまとめた高知の観光についての提案も、観光行政に携わる方々に伝える場を設定することで、学んだことが実社会に生きる体験とし、来年度の職場体験学習へのつながりも意識して取り組みたい。

3 単元の概要

(1)単元の目標



高知と京都の観光の取り組みについて、**現地調査やアンケート**を用いて比較し、分析することを通して、改めて高知の観光の良さと課題を明らかにするとともに、高知を魅力あふれる観光都市として活性化するために何が出来るかを考え、発信できるようにする。

(2)単元で育てようとする資質や能力及び態度

〈学習方法に関すること〉

- ア 地域にある複数の課題の中から適切に課題を設定する。
- イ 課題解決に必要な情報を収集する。
- ウ アンケートや思考ツールを活用し、比較や関連付けをしながら情報を整理・分析する。
- エ 複雑な問題状況における事実や関係を把握し、自分の考えを持つ。

〈自分自身に関すること〉

- オ 目標を明確にし、課題の解決に向けて計画的に行動する。

〈他者や社会との関わりに関すること〉

- カ それぞれの考えを生かし、協働して課題を解決する。
- キ 調査に際しては、多様な考えを持つ人々と関わり、分析やまとめに生かす。
- ク 課題の解決に向けて自らの考えを発信する。

(3)単元で学ぶ内容

- ア 高知と京都の観光の特徴を比較することから分かる高知の観光の良さと課題
- イ 高知の観光を活性化するために取り組んでいる人々や組織、その取り組みに対する思い
- ウ 地域の一員として、高知の観光の活性化につなげるための活動や取り組み

4 単元の評価規準

学習方法に関すること	自分自身に関すること	他者や社会との関わりに関すること
①高知の観光を活性化するというテーマに沿って課題を設定し、観光パンフレットなどの資料や現地調査などを活用して必要な情報を収集している。【(2)ア・イ、(3)イ】	①探究の過程で自らの学習活動を振り返り、高知の観光の活性化に向けての考えを広げ、深めることができている。【(2)オ、(3)ウ】	①グループで協働的に探究する場面や自分の考えを発表する際には相互評価を行い、共通点や相違点を検討しお互いに認め合ったり改善の方向について指摘を行ったりすることで互いに高め合っている。【(2)カ】
②アンケートや思考ツールを活用し、高知と京都の観光について比較や関連付けをしながら情報を整理・分析している。【(2)ウ、(3)ア】		②調査を通じて様々な立場の人々と関わったり、多様な考えを受け止めたりしている。【(2)キ】
③高知と京都の観光を比較・分析したり、観光の活性化に取り組む人々の思いを聞いたりすることから、高知の観光における新たな価値を見出している。【(2)エ】		③高知の観光の活性化に向けて取り組んでいる人々の思いにふれ、効果が上がっている点と課題になっている点を生徒の視点から整理・分析し、自分たちの考えた提案を発信する。【(2)ク、(3)イ・ウ】

5 指導と評価の計画 (全19時間)

小単元(時数)	主な学習活動	評価規準及び主な評価方法	
<p>1 高知と京都の観光の特徴をつかもう。 (全5時間)</p>	<p>◎課題の設定 (2h) ○単元のオリエンテーションでねらいを知り、学習の必要性を感じ、見通しを持つ。 ○資料をもとにした話し合いから、高知の観光における良さと課題を見付け、特に課題となる部分を明らかにして探究するテーマとして設定する。</p> <p>◎情報の収集とさらに調査するための企画・立案 (3h) ○高知と京都の観光について、パンフレットや新聞記事、インターネットなど多様な情報を集め、内容ごとに整理する。 ○既成の情報だけでなく、自分たちでも学校や地域を対象にして高知の観光についての生きた情報を集めるためにアンケートを作成したり、調査の計画を立てたりする。</p>	<p>学①</p> <p>学②</p>	<p>制作物による評価 (ワークシート)</p> <p>制作物による評価 (アンケート等)</p>
<p>2 高知の観光の良さと課題をまとめよう。 (全6時間)</p>	<p>◎高知の観光について実地調査とまとめ (3h) ○観光行政、コンベンション協会、土産物店、ホテルなどへ聞き取りに行くグループと、アンケートを使って情報を集めるグループの二つに分かれて実地調査を行う。 ○二つのグループそれぞれが思考ツールなどを用いて情報を整理・分析し、その結果を情報共有しながら高知の観光に関して新たに発見したことについて話し合う。</p> <p>◎情報の整理・分析と次の実地調査の計画 (3h) ○これまで集めた高知の観光についての情報を整理・分析し、京都での実地調査の計画を立てる。</p>	<p>他②</p> <p>学②</p> <p>他①</p> <p>学③</p>	<p>観察による評価 (調査活動での行動や発言)</p> <p>制作物による評価 (ベン図、クラゲチャート、各種チャート等)</p> <p>観察による評価 (行動や発言)</p> <p>制作物による評価 (ワークシート)</p>
<p>3 課題解決のためにさらに詳しい情報を収集しよう。 (全5時間)</p>	<p>◎京都の観光に関する実地調査 (5h) ○自分たちが考えた観点をもとに、京都の観光地、土産物店、宿泊先などにおいて調査活動を行う。</p>	<p>他②</p>	<p>観察による評価 (調査活動での行動や発言)</p>
<p>4 高知の観光を活性化する方法を考え、発信しよう。 (全3時間) (本時2/3)</p>	<p>◎振り返りとまとめ (1h) ○高知と京都の観光に関する実地調査やアンケートの結果などから比較・分析を行う。</p> <p>◎発信 (2h) ○高知の観光の活性化に向けての提案を行い、観光行政に携わる関係者に評価してもらう。</p>	<p>自①</p> <p>学②</p> <p>他③</p>	<p>制作物による評価 (ワークシート)</p> <p>パフォーマンス評価 (提案をしている生徒の活動)</p> <p>制作物による評価 (ワークシート)</p>